



CHÂTEAU LA COSTE

Provence



南仏シャトー・ラ・コスト初の大規模個展

ダミアン・ハーストの展覧会を開催

2024年3月2日～6月23日

イギリス出身の現代アーティスト、ダミアン・ハーストは、2024年3月2日（土）～6月23日（日）、南フランスの歴史あるワイナリー、シャトー・ラ・コストにて大規模な個展を開催します。レンゾ・ピアノ、オスカー・ニーマイヤー、リチャード・ロジャースら世界有数の建築家が設計を手がけた5つのエキシビション・パビリオンをはじめ、500エーカーの広大な敷地全体に、ハーストの彫刻と絵画が展示されます。

「The Light That Shines（輝く光）」と題された当展覧会には、ハーストの代表的なシリーズと初公開作品の両方が含まれます。彼は、30年以上の創作活動の中で、美、宗教、科学、生、死の関係について考察してきました。動物の死体をホルマリン漬けにした「ナチュラル・ヒストリー（博物学）」は、数多くの作品の中でも特に有名なシリーズです。会期中、90年代初頭に開始された当シリーズの主要作品を、「レンゾ・ピアノ・パビリオン」にてご覧いただけます。

ハーストの作品を語る上で欠かせないもう1つの象徴的なモチーフは、蝶です。根源的かつ普遍的なテーマを追求する手段として、継続的に蝶を題材として取り上げてきました。「リチャード・ロジャース・ギャラリー」にて初めて公開される「ザ・エンプレス・ペインティング（女帝の絵）」は、赤と黒の蝶の羽を万華鏡のように魅惑的なパターンにアレンジした作品です。歴史上の女性君主たちにちなんで名付けられました。

ジャン・ミシェル・ウィルモットがデザインした「オールド・ワイン・ストアハウス」では、「コスモス・ペインティング（宇宙の絵）」と、「サテライト（衛星）」および「メテオライト（隕石）」の彫刻シリーズが、初公開されます。ハーストは、頭蓋骨をかたどりダイヤモンドを敷き詰めた彫刻作品「神の愛のために」、そして火星探査宇宙船のために「スポット・ペインティング」シリーズの絵を描いた後、地球上に存在しないものを表現したいと考え始めました。ハッブル宇宙望遠鏡が長時間露光した空の暗い一角の画像にヒントを得た彼は、黒く塗りつぶしたキャンバスをアトリエの床に固定し、何度も絵の具を塗り重ねて「コスモス・ペインティング」を制作しました。

アンティーク調の金属ラベルによって新しくも古くも見える「サテライト」のブロンズ彫刻は、ドガの蟬人形をブロンズに鋳造した像から着想を得ています。当シリーズは、ムラーノ島の職人とのコラボレーションによりガラス製の彫刻にもなっています。一方、ハーストが様々な博物館で観察した隕石を基に制作したブロンズ製の「メテオライト」は、まるで本物のようです。

「オスカー・ニーマイヤー・オーディトリウム」では、2017年にヴェネチアのパラッツォ・グラッシとプンタ・デッラ・ドガーナで初公開された「難破船アンビリーバブル号の宝物」作品シリーズの彫刻とライトボックスが展示されます。「バステード・ギャラリー」に展示される最新シリーズの「ザ・シークレットガーデン・ペインティング（秘密の庭園の絵）」は、鮮やかな絵の具が飛び散った抽象的な層を備えたキャンバスに、色鮮やかな花々が描かれています。

さらに、フランク・ゲーリーが手がけた「ミュージック・パビリオン」や安藤忠雄設計の「タダオ・アンドウ・アートセンター」を含め、屋外彫刻も展覧会の一部として敷地内に設置されます。

ダミアン・ハーストは、「シャトー・ラ・コストを魅力あふれる唯一無二の場所にしたパディ・マッキレンの功績は、言葉では言い表せません。フランク・ゲーリー、オスカー・ニー

マイヤー、リチャード・ロジャースが設計した巨大なパビリオンを含む敷地全体を使って個展を開く最初のアーティストになることに、感激しています。人々が訪れるべき世界で最も素晴らしい場所を創造するパディは天才であり、偉大な友人です。彼が描くビジョンの一部になれることを嬉しく思います」と、コメントしています。

シャトー・ラ・コストの創設者、パディ・マッキレンは、「この壮大な展覧会は、何年も前から温めてきた構想です。ユーモアに富むダミアンとお茶を飲みながら談笑する中で、アイデアが生まれました。ダミアンは完璧を追求し、計画を練り上げ、セザンヌが愛したプロヴァンスの風景の中で、アートと建築の両方が引き立つよう各要素を考案しました。各ギャラリーに展示される彼の絵画と彫刻、そして豊かな自然が一体となり、ひとつの傑作を創り上げます。ダミアンと彼のチーム、そして作品群を、シャトー・ラ・コストに迎えられることを光栄に思います。美しいプロヴァンスでダミアンの世界観を体験できる当展覧会に、ぜひお越しください」と、コメントしています。

NOTES TO EDITORS

<展覧会概要>

展覧会名：Damien Hirst: *The Light That Shines* (ダミアン・ハースト：輝く光)

会期：2024年3月2日（土）～6月23日（日）

会場：Château la Coste (シャトー・ラ・コスト)

2750 Route de la Cride, 13610 Le Puy-Sainte-Réparate, France

Website: www.chateau-la-coste.com

About Damien Hirst

ロンドンとデヴォンを拠点に活動する英国ブリストル出身の現代アーティスト。

ハーストの作品は、ナポリのドンナレジーナ現代美術館、ミュンヘンのブランドホルスト美術館、フランクフルト・アム・マインの現代美術館、アムステルダム市立美術館、マドリードのドス・デ・マヨ・アートセンター、ロンドンのテート、イスラエル博物館、ノルウェー・オスロのアストラップ・ファーンリー美術館、スコットランド国立近代美術館、モスクワの現代美術国立センター、ニューヨーク近代美術館、ワシントンD.C.のハーシュホーン博物館と彫刻の庭、シカゴ美術館、ロサンゼルスザ・ブロード、メキシコシティのフメックス美術館、金沢21世紀美術館を含む世界の名だたる現代美術館によって収蔵されています。これまでに、モナコ海洋博物館にて「コルヌコピア」展（2010年）、ロンドンのテートにて「ダミアン・ハースト」展（2012年）、カタールのアル・リワク・ギャラリーにて「Relics（残存）」展（2013年）、パリのデロールにて「Signification（意義ーパリの希望、不滅、死、そして今と昔）」展（2014年）、オスロのアストラップ・ファーンリー美術館にて「ダミアン・ハースト」展（2015年）、ワシントンD.C.の国立美術館にて「最後の晚餐」展（2016年）、ヴェネチアのパラッツォ・グラッシとプンタ・デッラ・ドガーナにて「難破船アンピリーバブル号の宝物」展（2017年）、イギリス・ノーフォークのハウトン・ホールにて「ダミアン・ハースト at ハウトン・ホール：カラススペース&屋外彫刻」展（2019年）、スイスのサン・モリッツにて「メンタル・エスカプロジー」展（2021年）、パリのカルティエ現代美術財団にて「ダミアン・ハースト 桜」展（2021年）、ローマのボルゲーゼ美術館にて「現代の考古学」展（2021年）など、個展を多数開催。1995年にターナー賞受賞。

About Château La Coste

南仏の歴史と文化が息づく街、エクス・アン・プロヴァンスとリュベロン国立公園の間、フランス最古のワイン生産地の1つに位置するシャトー・ラ・コストは、ワイン、アート、建築を楽しめるユニークなワイナリーです。2011年に一般公開されて以来、500エーカーの敷地に点在する5つのギャラリーと屋外に展示された40点以上の現代アートの名作が、訪れる人々を魅了しています。

有名なサイプレス、カサマツ、オーク、オリーブの樹々などが生い茂る美しい景観に囲まれた当ワイナリーは、アーティストの創造性を刺激する理想的なアトリエでもあり、毎年、一流のアーティストや建築家が招かれ、新しいプロジェクトや作品が制作されます。フランク・ゲーリー、杉本博司、ルイズ・ブルジョワ、リチャード・ロジャース、ソフィ・カル、プリュンヌ・ヌーリー、トレイシー・エミン、ジャン・ヌーヴェルなど、これまでに招待された著名アーティストが制作した作品を、常設のコレクションとして鑑賞することができます。

www.chateau-la-coste.com